

「個人レポート」

[2班: 三津家 律子]

感想等

- ・最初は「男女共同参画」の意味がピンと来なかったが、研修を受けている内にこれは「老若男女誰もがいきいきと暮らす男女共同参画社会を推進するための地域リーダー育成事業」であるとわかってきた。
- ・ことばを「老若男女共同参画」にしたらわかりやすいのではないか。
- ・一般研修生はどなたもご自分の地域でとても活動されていて圧倒された。
- ・研修後、男女共同参画について意識するようになった。例えば
- ① ちょうど衆議院選が始まり、熊本県は立候補者12名中、女性候補者が5名。年齢は28歳から59歳。よくぞ立ってくれたと拍手を送りたい。結果は4名とも落選だったが、4名で計137,029票入っている。今後女性議員が増えることが「男女共同参画社会の実現」の近道ではないかと感じる。
- ② ニュースで女性が安心して働き続けることのできる環境設定の提言、月経困難症や更年期障害への配慮等を言っていた。
- ③ ニュースで女性・女系天皇についての各政党の考えは賛成が54、反対が15と言っていた。これも今まではそこまで耳に止めなかった案件である。
- ④ 夫婦別姓問題や同性婚も男女共同参画社会への道筋ではないか。
- ・振り返ってみると、男女共同参画に関するものは以前からNHKの朝ドラにずっと出てきている。「おはなはん」「おしん」から現在再放送の「カーネーション」、前回の「虎に翼」も然り。男性上位社会を切り開いていくたくましい女性達の物語は多くの国民に影響を与えてきたのではないか。
- ・私は玉名市高齢介護課のいきいきふれあい活動でエコ手品を教えている。菊池川グリーンベルトパークゴルフ場は遠いので車で来る人ばかりであるが、いきいきふれあい活動は居住区の公民館で行うので参加しやすい。
- ・私はパークゴルフの会の事務局もやっている。パークゴルフをすることで健康長寿が伸びるように、快適な居場所作りを行っている。
- 自分でした方が早いとわかっているけど、お手伝いを頼んで一緒にやってもらうことで、一緒にによりよい方法を試行錯誤している。それは3年前と比べて目を見張る進歩をしていると自負する。快適だから利用者が増え、病気だった人も元気になり、口コミで利用者が増えている。メンバーにはそれぞれ特技があり、大工さんはクラブスタンドや立て札を立て、電気工事技師さんは発動機が機動するようにメンテナンスしてくれた。車の整備をしていた人は芝刈り機のメンテナンスができる。刈り払い機やトラクターを持ってきて土地整備をしてくれる人がいる。ガーデニングが趣味の人は花植えを指導してくれている。
- ・メンバーからいただいた協力金で購入した拡声器のおかげで、ラジオ体操や開会挨拶、結果発表もはっきり聞こえるようになった。
- ・自分にできる身近な男女共同参画は、いつも意識を持つことと、サークルで居心地のいい場所を作って皆さんの健康寿命を延ばすことかなと考える。

(800字～1200字程度)

「意見交換会レポート」

[2 班]

テーマ	地域で協力しやすいコミュニティ作り
意見交換の柱、キーワード	防災、子育て、先進地の事例、小中学校での啓発・出前講座
地域の現状課題についての意見交換	① 男女共同参画の呼びかけ方、広め方、雰囲気作りについてエセナでの実践事例を教えてほしい。 ・当事者目線を忘れないようにしている。 ・小さい時から意識づけをするために小学校の時から DVD を見せたり、職場体験をしてもらっている。 ・一目で分かるこども食堂マップを作った。 ・こども食堂では本音が話しやすいとわかった。困難ケースは専門家につないでいる。 ・講話はターゲットを絞って講師を決めている。 ② 大津町では読み聞かせの時間に DVD を見せたり、色の固定観念について話をしたりしている。 ③ 受け身の人が多く、まだ参画まではいかなくて参加の状態である。 ④ 和水町では予算をもらうのが難しい。年に 1 回発表の場があるだけ。助成金をつけてほしい。 ⑤ 実績を作りながら何回も頼みに行くと助成金は実現する。 ⑥ 山鹿市は事実上職員 1 人でやっている。8 月にフォーラムを行ったが 300 名募集して 100 名参加だった。天草市は事実上職員 2 名でやっている。 ⑦ 防災は行政がしてくれるのが当たり前という考え方がある。 ⑧ 防災非難の仕方をみんなでシュミレーションしたことがある。トイレの場所とか、女性の意見が反映されるようにマップ作りをした。 ⑨ 男女共同参画の話をする高齢者は今までの生き方を否定されたように感じるようだ。 ⑩ 家族に尽くすのが幸せと言う人もいる。→心地よい関係がいい。 ⑪ 和水町は区長さんが全員男性。PTA 会長も然り。学校長は女性も増えてきたが。
課題解決に必要なこと	① 行政との連携 ・啓発は職員が話すだけで浸透しない。常に伝え続けることが必要なので、エセナフォーラムや講座を続けていく。 ・たとえば「こども食堂マップ」を作った。どこにあるかわかりやすいので行きやすいし、こども食堂のスタッフには自然に本音と言える。それは核家族で食事するより会話ができるから。重い相談は専門機関に繋いでいる。 ② 和水町では 2 つある公民館に男女共同参画の図書のコーナーを作るとかやりたい。 ③ 天草市はセミナーの案内は過去の参加者に案内している。

県外研修を受講 しての感想・意 見等	○講話 1 について ・ 個人負担での活動には無理があるので、地域と行政の連携として助成金が貰えるといい。最初は門前払いでも、実績を重ねながら何回も言い続けると委託事業が実現することもあるということがわかった。 ・ 約 20 年前に発足した、筆者の所属する NPO 法人「菊池川水やさしい自然と豊かな心を育むつくしの会」（略称「菊池川つくしの会」）でも委託事業に持って行くまで何回も国土交通省と市役所に足を運んだ先輩会員のたゆまぬ努力があった。 ○講話 2 について ・ とてもよかった。すぐ生かせる講話だった。 ・ さっそく行き帰りに広告をチェックして実感した。 ・ チラシ作りのコツを教えてもらい、とても説得力のある講話だった。 ・ 実際に作ったチラシで募集をかけた時の応募数について検討したのがリアルだった。失敗例の分析も成功例の分析も大変参考になった。 ・ チラシ作りをしたことがあるが、行政主導で作ったチラシの時より、話し合っ一緒に作った時の方が応募数は多かった。 ・ 企画する側なのでとても参考になった。
	○講話 3 について ・ おもしろい講話だった。 ・ 素敵な生き方だと思った。 ・ 男性の家事育児と働き方について、我が家と比較しながら聴いた。 ・ 20 代男性の 8 割以上が育休取得希望という数字に驚いた。 ・ 夫退職後の現在は家事の役割分担ができており、片方が体調不良時はもう片方がやるというパターンができています。1+1=2 ではなく、1+1=1.5 でいいと考える。自分も相手も尊重し、話し合いながらやるのがベストと実感した。
まとめ	・ これから地域で男女共同参画社会づくりを実践していくのに、どれも大変ためになる講話だった。 ・ グループ内での意見交換も、エセナの方との意見交換も、エセナの施設見学も大変ためになった。 ・ 他のグループの意見が聞けてよかった。 ・ 助成金の申請の仕方がわかってよかった。 ・ 自己の活動の課題も見つかった。 ・ どのようにしたら課題がクリアできるか、これから各自、仲間と一緒に検討していく。

「自主研修実施報告書」

[2 班 : 三津家 律子]

日 時	R6 年 10 月 12 日 9 時～11 時、10 月 19 日 9:30～11:30、 10 月 27 日 13:30～15:30
場 所	いずれも菊池川グリーンベルトパークゴルフ場
参加者(人数)	10 月 12 日 46 名、10 月 19 日 57 名、10 月 27 日 54 名
形 式	パークゴルフの試合(個人戦かペアマッチ)
ねらい	「地域で協力しやすいコミュニティ作り」 高齢者が健康で生きがいを持って暮らすことのきる明るい長寿社会をめざす。
内容	試合は1組4名以内で1ラウンド(18ホール)を回って打数を競い合う。ルール・マナーを守って快適にプレーする。試合のために日々練習に励むが、あまり勝ちにこだわらないようにし、和気あいあいコミュニケーションしながらプレーする。
感想等	・筆者はパークゴルフサークルの事務局をしており、月3回の試合のほか、除草作業や懇親会、旅行等のお世話をしている。約100名の方が利用されており、平均年齢78歳。 ・整地作業や試合開催については玉名市土地整備課と話し合っている。 ・作業予告や試合の参加者募集はチラシを掲示板に貼っている。 ・事務局として気をつけていることは、利用者の意見を聞くこと。役割を頼んでお礼を言うと貢献感を持ってもらえるし、互いに名前を覚えるのでその後のコミュニケーションがスムーズに行く。 ・快適な場所にするため、利用者各自が得意分野を生かし、2コース18ホールとテント2張りを設置した。コース作りは今も続いている。 ・年々と利用者が増え、皆さん笑顔でプレーされている。体調の悪かった人が元気になられ、体調の悪いお友達を連れてこられる。家にいるよりここに来ておしゃべりするのが楽しいと好評である。 ・しかしながら課題点もある。女性の利用者が少ない。それは当会場にトイレがないから。これは男女共同参画の視点からも喫緊の問題である。ぜひ行政と話し合って水洗トイレ設置を実現したい。 ・パークゴルフは軽運動なので男性女性に関わらず、手軽にできる。パークゴルフをすることにより、利用者の健康やコミュニケーションのきっかけづくりに寄与し、医療費の削減にもつながっていると自負する。 今後は、研修で学んだ行政との連携のコツを踏まえ、玉名市とのさらなる連携のもと、健康長寿と地域コミュニティの活性化に取り組んで参りたい。

「自主研修実施報告書」②エコ手品編

[2班: 三津家 律子]

日 時	R6 年 10 月 23 日 10 時～11 時
場 所	玉名市糠峯東公民館
参加者 (人数)	高齢者 16 名、玉名市高齢介護課介護予防スタッフ 2 名 手品スタッフは 4 名
形 式	参加型エコ手品教室
ねらい	「地域で協力しやすいコミュニティ作り」 高齢者が健康で生きがいを持って暮らすことのきる明るい長寿社会をめざす。
内 容	① 手品のデモンストレーション 10 種類 ② そのうちの簡単な 4 つを教え、覚えてもらう。 ③ 有志の方に披露してもらう。 ④ やり方を書いた紙を配り、持って帰ってもらう。 ⑤ 帰ってから家族や友人に披露してもらう。
感想等	○玉名市高齢介護課の介護予防ボランティアに「わくわくエコ手品」という名称で 6 名のメンバーで登録している。代表は三津家。 ○要望のあった公民館の「いきいきふれあい活動」に派遣される。 ○家にある物を使った、お金のかからない手品を紹介し、覚えてもらっている。 ○途中 2 年休んだが、実質 8 年行った。当日行けるメンバーで行っている。 ○今年度は年間 14 回のオファーがあった。そのほかに 2 団体、敬老会と老人会に呼ばれた。9/16 (月) 岱明町庄山公民館での敬老会は子どもから高齢者まで施設いっぱい地域住民が集っており、会食あり寸劇ありカラオケあり、筆者の手品ショーも喜んでいただいた。手品に関する質問もたくさん受けて回答した。 因みに毎年敬老会を企画している糸永千代美さんは 2000 年に男女共同参画研修を受けた方だった。以後ずっとご主人(区長さん)とともに地域リーダーをされて、男女共同参画社会の推進をされているとのことだった。 ○公民館は歩いて来ることのできる範囲なので、参加者が多い。 ○男性より女性の参加者が多い。女性に開眼してもらう機会が多いということ。 ○皆さんやる気満々で生き生きと練習し、披露される。笑いが絶えない。 ○コロナ禍で茶話会が中止になって参加者減という問題はあるが、近い将来落ち着けば茶話会が復活して参加者も戻ると思われる。 ○エコ手品は男性女性に関わらず、手軽にできるものなので、エコ手品をすることで地域や家庭での笑いやコミュニケーションのきっかけづくりに寄与し、医療費の削減にもつながっていると自負している。 ○メンバーの高齢化という課題はあるが、今後は研修で学んだ広報の工夫を活かし、玉名市とのさらなる連携のもと、地域コミュニティの活性化に取り組んで参りたい。

令和6年度男女共同参画社会づくり地域リーダー事後研修

日時 令和6年11月25日 13:30～ 熊本県防災センターにて

◎研修報告発表



◎修了証交付

